

研究分野	漁場環境	部名	浅海環境部
研究課題名	漁場環境監視調査		
予算区分	交付金 (県1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	H.17 ~ H.21		
担当	今井 美代子		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

漁獲対象生物にとって良好な漁場環境の維持を図るため、陸奥湾沿岸域における水質環境の現況を調査する。また、生物モニタリング調査（底質調査を含む）を行うことによって底泥中に棲息する生物（マクロベントス）の種類・現存量を指標とし、陸奥湾沿岸水域の漁場環境の長期的な変化を監視する。

〈試験研究方法〉

1 水質調査

- (1) 調査海域 陸奥湾内 St. 1~11 の 11 定点
- (2) 調査回数 毎月 1 回
- (3) 調査方法及び項目

気象、海象、水色、透明度
水温、塩分、D0、pH、栄養塩

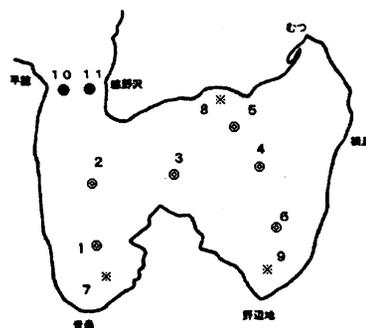
2 生物モニタリング調査

- (1) 調査海域 陸奥湾内 St. 1~9 の 9 定点
マクロベントスは St. 7~9 の 3 定点

- (2) 調査回数 7,9月の2回/年

- (3) 調査方法及び項目

気象、海象、底質(粒度組成, COD, TS, IL)、
底生生物(マクロベントスの個体数, 湿重量測定, 種の同定, 多様度指数)



●:水質調査地点 ◎:水質・底質調査地点
*:水質・底質・底生動物調査地点

〈結果の概要・要約〉

底層のD0の最低値はSt.4の9月に4.53mg/L(飽和度56%)と低酸素状態がみられた。
栄養塩は、全窒素(DIN)でみると、硝酸態窒素(NO₃-N)が11月に、亜硝酸態窒素(NO₂-N)が12月に非常に高かった影響を受け、11,12月に高めだったほかは、アンモニア態窒素(NH₄-N)が年間を通して低めに推移したこともあり、概ね平年並み~やや低めで推移し、特に8月は底層で平年よりかなり低めだった。
リン(PO₄-P)は20m層では平年並み、底層では6月に高め、8月に低めのほかは概ね平年並みだった。
ケイ酸(SiO₂)は20m層、底層ともに10,12月に高めのほかは概ね平年並みだった。
年間を通して、概ねこれまでの変化の範囲内となっており、陸奥湾で富栄養化が進行している兆候は認められない。

〈今後の問題点〉

陸奥湾内の栄養塩レベルとホタテガイ等の成長との関連性検討。

〈次年度の具体的計画〉

調査の継続、底層の貧酸素状態の監視強化。栄養塩分析結果からの陸奥湾内の餌料環境の詳細な検討。

〈結果の発表・活用状況等〉

- 平成18年度漁場環境総合監視調査報告書作成予定
- 平成19年度漁場環境保全推進事業東北ブロック会議で報告予定
- 平成19年度漁業公害調査指導事業検討会で報告予定
- 平成19年度漁業環境保全総合美化推進委員会で報告予定

〈主要成果の具体的なデータ〉

